

2016 SRBR meetingに参加して

青山晋也[✉]

早稲田大学重点領域研究機構

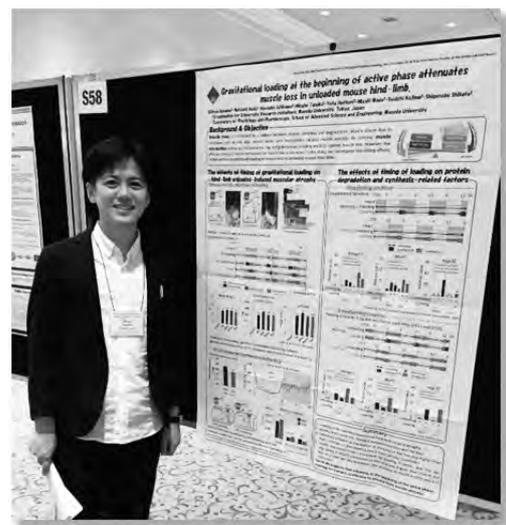
2016年5月21日から25日まで、米国フロリダ州のタンパにて開催された2016年 Society for Research on Biological Rhythms (SRBR) meetingに参加してきました。今回の学会には、多くのレクチャーやシンポジウム、スライドまたはポスターセッションがあり、内容も基礎研究から応用研究まで多岐にわたった内容で構成されていました。私にとってはSRBRへの参加は今回が初めてで、最新の研究成果や海外の著名な先生方のレクチャーを聞くことができ非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

タンパまではヒューストン経由で約18時間かかりました。開催地であるInnisbrook Golf Resortはアメリカのゴルフツアートーナメントも開催される有名なゴルフ場で、ゴルフ場以外にも、会議室やプール、テニスコート等といった複合リゾート施設でも広大な敷地でありました。

出発前に調べてみると、いくつものゴルフコースがある広大な敷地の中に点々と学会会場があり、宿泊施設も一か所にかたまっておらず、点在していたので、学会会場にできるだけ近くの部屋がとれていることを願っていました。実際に到着した際もInnisbrook Golf Resortの入り口から受付の場所までもかなりの距離があり、徒歩でリゾート内を移動するのは到底困難だとすぐに感じるほどの広さでした。到着後に学会の受付を行い、部屋を確認してみると、幸いにも部屋は会場に近く徒歩圏内であり一安心したのを覚えています。

私が所属している早稲田大学の柴田研究室では4題のポスターを発表しました。私は、もともと栄養学が専門で、これまでは栄養成分の生理機能に関する研究を実験動物を用いて研究を行ってまいりました。昨年度から柴田先生の研究室にポスドクとして働きはじめ、食事や運動と体内時計との関係（時間栄養学、時間運動学）について研究を行ってきてお

ります。今回はその中で筋萎縮の予防に向けた運動、リハビリのタイミング効果についてマウスを用いて行った研究成果をポスター発表する機会をいただきました。ポスター発表では幸いにも何人かの研究者の方に聞いていただき、貴重な意見やアドバイスをいただきました。今回の発表テーマを始める際に、これまでの過去の筋機能と体内時計に関する研究成果から、多く勉強させてもらい、それら論文をもとに骨格筋量をコントロールするにはどのようなタイミングで筋肉で刺激を与えることが有効か仮説を立て実験を行ってまいりました。Karyn Esser教授をはじめ、骨格筋機能と体内時計に関する研究を精力的に行われている多くの研究者に質問、コメント等をいただけたことは非常に貴重な機会でした。また、自身の研究テーマに近い骨格筋機能と体内時計の関係性に関する研究を行っているグループのポスターもいくつか出ており、とても興味深い内容を聞いただけでなく、お互いの研究について意見交換できたことは非常にいい出会いでした。



ポスター発表での一枚

✉saoyama@aoni.waseda.jp

シンポジウムやスライドセッションでも、栄養素による体内時計の同調効果や食事の摂取タイミングによる代謝変動に関する発表を、最新の研究データだけでなく、これまでの時間栄養に関する研究の変遷を体系的に聞けたのは、私にとっては非常にいい機会で、とても興味深く聞き入っていました。恥ずかしながら、学会に参加する前は私の頭の中で情報ばかりが入っていて体系的にまとめきれていなかったため、その点を整理できたとてもいいチャンスでした。

最終日のBanquetでは今回の参加人数やAwardの発表が行われ、今回の学会には参加者683名、432演題、参加者、演題数ともに前回のSRBRよりも多かったそうです。私自身もオーラルセッション、シンポジウム、ポスター発表等を見て、非常に大盛況の学会であったように感じました。

ここからは、学会の休憩時間や空き時間を利用して出かけた場所等についてレポートしたいと思います。タンパ周辺には学会会場のゴルフリゾートだけでなく、多くのリゾート施設や観光地があり、休憩時間を利用してレンタカーで出かけていました。特に印象的だったのは真っ白な砂浜で有名なクリアウォータービーチでした(写真)。天気も快晴で、見た瞬間にテンションが上がって、そのまま走って海に入っていました。前日の雨のせいか海は思ったほどきれいでなかったのが残念でした。しかし、砂浜の綺麗さとビーチの雰囲気を含め、全体的にはとても素敵な場所でした。



クリアウォータービーチ

また、初日の空き時間を利用して朝からレンタカーでフロリダ半島を横断し、ケネディ宇宙センターに行き、スペースシャトルや発射台の見学をしてきました(写真)。かなり大きな施設で、ロケットやスペースシャトル(レプリカ)が数多く展示されており、実際の発射台等をバスで見学するツアー等がありました。



ケネディ宇宙センターでの一枚

最後に、食事のことについて書かせていただきます。今回のSRBRが早稲田大学の柴田先生のところに来てから最初の国際学会だったのですが、朝食・夕食すべて自分たちで調理することに最初は驚きを隠せませんでした。(これまで私の所属していた研究室では学会中はほとんど外食でしたので)。スーパーでの買い出しから、メニュー、段取りまで、すべてにおいて柴田先生が率先して指揮をとられており、調理が始まると柴田先生の指揮のもと研究室の田原先生たちの連携プレーには初体験の私には驚きでした。最終日には何とか私もその一部として役に立てていたような気がします(写真)。普段の研究室生活とは違った一面の柴田先生を見れたのも今回の学会に参加したおかげだと感じています。

最後になりましたが、学会に参加させていただきました早稲田大学の柴田先生並びに、今回このような参加記への投稿機会をいただきました名古屋大学の吉村先生、また日本時間生物学会の関係者の方々にもお礼申し上げます。



夕食準備における一枚